

なばなの長期連続収穫のための主枝収穫技術

[研究のねらい]

なばなは長さ約 20cm の莖葉を食用とする洋種ナタネの仲間で、主枝の先端を秋に収穫した後、冬から春に発生する側枝を次々と収穫出荷します。しかし、主枝の収穫方法については技術確立が十分ではなく、主枝の収穫葉位と収量・品質の関係を明らかにします。

[研究の成果]

- ①総収量は主枝を 12 葉で収穫することで、慣行の 7 葉収穫より多くなります (図 1)。
- ②主枝を収穫前に早期摘心することで 2L 収量と 2L 比率が高くなり、収穫調整作業の省力化が図れます (図 1)。
- ③主枝の収穫時期の早い 7 葉収穫、12 葉収穫では、側枝の収穫時期も早まります。17 葉収穫では、厳寒期 (12 月下旬～2 月上旬) にも比較的多く収穫できます (図 2)。
- ④異なる収穫葉位を組み合わせることで、収量の波が小さくなり、労力分散が図れます (図 2)。

[成果の活用面・留意点]

- ①種子は J A 岩出選抜系統を用いました。
- ②主枝を 17 葉位で収穫した場合 2L 収量の比率が低くなります。
- ③側枝は基部 2 葉を残して収穫します。

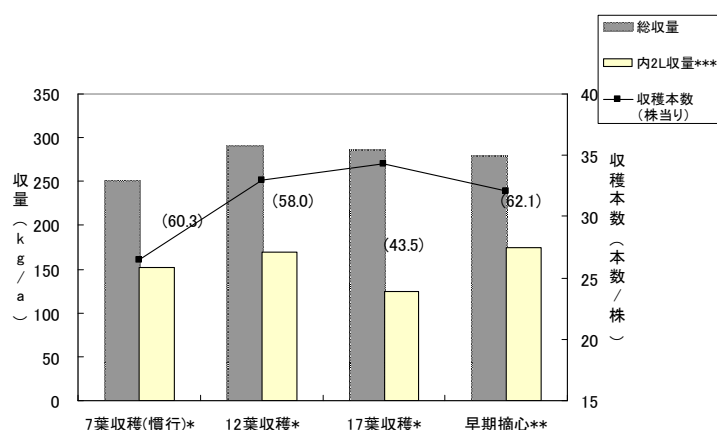


図1 主枝の収穫葉位とナバナの収量(2002年3月)
 注) 播種: 2002年9月12日、定植10月10日、うね幅130cm、株間40cm、2条植え
 *各7葉、12葉、17葉位の上で主枝の先端を収穫、
 **収穫前に主枝を摘心
 ***23g以上、(2L比率%)は重量比

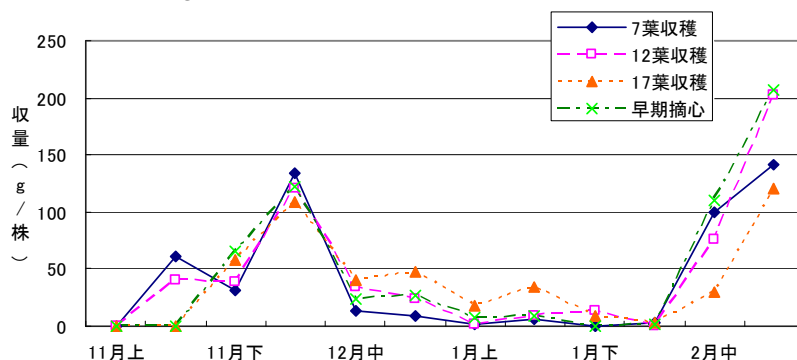


図2 主枝の収穫葉位と旬別収量(2002年3月)



写真1 なばな出荷時の荷袋

実施年度: 平成14～15年
 担当者: 藤岡唯志